

スプライト(2020-21)の解析結果と考察(関口孝志)

2020年8月15/16日と2021年2月3/4日と10/11日のスプライトの解析結果と考察です。スプライトのスペクトルの解析方法やスプライトの高度測定の結果です。交差角による高度の結果の違いやスプライトの型による違いをまとめてみました。スプライトの同時観測では、交差角が小さいと同定はしやすいが、高度に違いが出やすい。交差角が大きくなると同定がしにくくなるが高度差は、測定場所や感度で異なる。スプライトの高度は、最高点は、88kmで最低点は、62kmで、60kmから85kmの間で発光しているものが多いことがわかった。キャロット型の下の方の薄い最低点は、46kmとなりました。最高点も薄い部分のどこを測るかでさらに、高くなると思われます。